改修なった観音寺の春

朝がた降っていた雨はやんだが、まだ厚い曇り空に、ドドーンと花火が上がる。観音寺の本堂改修落慶式は四月七日、この音とともに始まった。回廊では逆井囃子の軽快な響きも。十時にお隣の逆井会館からお練り開始。真っ先に、きらびやかな、かわいらしい稚児さんが、母親に付き添われてゆっくり到着。続いて、和讃グループが白の遍路姿で、鈴と撞木を手にさっそうと登場。改修工事の続けられていた本堂で、特訓していたけれど、のびのびと明るい。

角塔婆開眼で、五色の布が現れ、ご本尊につながっているのを拝むころには薄日も漏れてきた。本堂では、十六人のお坊さんの読経が始まり、工事の経過報告などがあり、続いて観音堂に移り、ここでも塔婆開眼、読経。秘仏十一面観音の十二年ぶりの午年ご開帳となった。

㊤生まれ変わった観音寺の本堂㊦着飾った稚児さんの行列

秘仏　十一面観音

観音寺の改修された本堂は、入母屋造り軒唐破風銅板葺。昭和四十二年に建てられたが、いたみがひどく改修に踏み切ったという。四百軒の檀家から、総計一億五千万円の浄財が集まった。

すでに牡丹寺として有名だが、真言宗豊山派安楽山誓光院観音寺という。改修工事の趣意書によると、四百五年前の文禄四年（一五九五）、約一キロメートルほど離れた手賀沼よりの中島というところに開創され、寛保二年（一七四二）、現在の地に移ってきたという。観音堂は天明二年（一七八二）に創建され、十一面観音を迎え、午年に開帳している。

お大師様を背負って回る送り大師講の六十九番札所でもある。

和讃は鈴の音とともに